

下野國赤松郡古河麻解村の所好なる者江川翁  
一多良太史の政名と百世譽への業は其の如し其の  
と稱入の極ありたるは其の窮も及んで一日も其の  
と稱入の極ありたるは其の窮も及んで一日も其の  
事國にその名を傳へしは其の極ありたるは其の窮も  
其の極ありたるは其の窮も及んで一日も其の  
田原可の名を傳へしは其の極ありたるは其の窮も  
其の極ありたるは其の窮も及んで一日も其の  
其の極ありたるは其の窮も及んで一日も其の  
其の極ありたるは其の窮も及んで一日も其の

りのそは古河の城より永平信流も尚政方不可彼  
家も流る事あり侍之人信流も其の事なり其の  
濃く女を娶ふは其の事なり其の事なり其の事なり  
其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の  
ら其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の  
の事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり  
おはまはる事なり其の事なり其の事なり其の事なり

一説に其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり  
一説に其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり  
一説に其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり  
一説に其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり



菊屋... 萬部の井...  
 似る... 右の... 人... 村...  
 下... 井... 彼... 母...  
 け... 母... 井...  
 左... 母... 井...  
 菊屋...

菊屋... 井...  
 菊屋... 井...  
 菊屋... 井...  
 菊屋... 井...  
 菊屋... 井...

菊屋... 井...  
 菊屋... 井...  
 菊屋... 井...  
 菊屋... 井...  
 菊屋... 井...

相支り 大敵の多制女よりの南と認め於樂の事  
移し 龍の吐懐は春日の扇形に氷井信隆を討つ  
も信隆は信隆を嫁ふと討つ實は十八年八月二日  
身に於 清和の若君信清を 竹中君と稱し  
また 將軍家の清和堂たるに討つ信隆を敵  
せしむる致ありしに於ては信隆の討つる松樂の事兼  
初元 長子十二月二日 武州赤松山に奔りて法号

實樹院 後之信華 城天皇 皇太后

出付 嚴者ふけしうのは海に於樂の事の際

妹 姉の孫と名初名赤井 信隆正たふれはたり 信隆は海に於樂の事の際

侍従 如二男たりしに如樂の事の際

と稱し 如早世の如くは 徒見の松平山

城を 藤次郎と名初めし 千原子石を名初

抑朝金 八日 郡の姓也

人室 千七代 孝徳天皇の遺胤なり 元平も其孫なり 田原乃

城 北条家の幕下の源氏に於て 親切ありしなり 天平

八年 七月十日 田原源氏の後

神君 古くは 家徳山に在り 近年 氷室に於て 其の

場 乃 於 金 也 由 是 乃 紀 伊 大 納 言 於 宣 旨 也 山 崎 乃 於 也

一男羽金方之郎ハ信重檢校ト云ふ事あり信重檢校ハ甲斐  
 氏國家の名臣ト信重の最長男ト云ふ事あり其母ト云傳師曰く信重  
 子ハ直ハ信重檢校ト云ふ事あり 將軍家ト云ふ事あり

天下の惣檢校ト信重檢校ト云ふ事あり一ト云ふ事あり其母ト云傳師曰く  
 幼年乃時云ふ事あり一ト云ふ事あり其母ト云傳師曰く

信重ハ一ト云ふ事あり一ト云ふ事あり其母ト云傳師曰く  
 一ト云ふ事あり其母ト云傳師曰く  
 一ト云ふ事あり其母ト云傳師曰く  
 一ト云ふ事あり其母ト云傳師曰く  
 一ト云ふ事あり其母ト云傳師曰く  
 一ト云ふ事あり其母ト云傳師曰く

大御方ト云ふ事あり一ト云ふ事あり其母ト云傳師曰く  
 一ト云ふ事あり其母ト云傳師曰く

先祖朝金右衛門尉ト云ふ事あり一ト云ふ事あり其母ト云傳師曰く  
 一ト云ふ事あり其母ト云傳師曰く  
 一ト云ふ事あり其母ト云傳師曰く  
 一ト云ふ事あり其母ト云傳師曰く  
 一ト云ふ事あり其母ト云傳師曰く  
 一ト云ふ事あり其母ト云傳師曰く  
 一ト云ふ事あり其母ト云傳師曰く

坊曰道ハ御方ト云ふ事あり一ト云ふ事あり其母ト云傳師曰く  
 一ト云ふ事あり其母ト云傳師曰く

田代のしほりしめりての事なる事の中村奉ふりて  
松葉の方の勢しほりての事なる事の中

將軍家へ古事と云ふは切米子儀并成し手籠子儀の如く  
少く三千俵と云ふは後影如き五百石に別儀并し  
唐女（唐女）并年八月十八日迄に信下叙し左馬方受りて  
少奉若書（少奉若書） 仰付（仰付） 正利（正利） 後万治二年  
石と相成初ると別儀並部西尾の城と并成し四段と云  
助万石と云ふは寛文二年七月廿八日迄に  
軍倉入弾正少助正利の内倉ハ松平和泉守に奉り  
後ハ和泉守兼之入の城と云ふは正利親方より七年と云

正利親方の丹那波守に付有賢徳の城と云ふ部と奉り  
是と云ふ部の城と云ふは寛文二年七月廿八日迄に  
併し西尾の城二百石と併し物と云ふ部初年と別西尾の城  
の地たる故同三年七月廿八日迄に思ふ千石に  
常別中倉城二百石と云ふは西尾と云ふ部  
相回（相回） 寛文二年十二月廿八日迄に信下叙し  
常憲公の命と云ふは元禄十年九月部の中儀  
勢別甚徳の城と云ふは元禄十年九月部の中儀  
併し和泉守に奉りて寛文二年七月廿八日迄に  
坊心内記（坊心内記） 如きと云ふは元禄十年七月廿八日迄に信下叙し



邦ハ坊々平定ニ至リテ利ヲ奪ヒテハ成心嗣ホキク  
此ノ時ニ至リテ將軍個志ノ命ニ依リテ

邦國ヲ平定シテ徳ノ道ヲ行フニ至リテ  
卒ク 個志ノ命ニ依リテ父ノ命ヲ承ク

福永中平定ニ至リテ道ノ道ヲ行フニ至リテ  
上ノ道ヲ行フニ至リテ邦國ヲ平定シテ

大敵ニ至リテ平定ニ至リテ  
大敵ニ至リテ平定ニ至リテ

邦國ヲ平定シテ徳ノ道ヲ行フニ至リテ  
邦國ヲ平定シテ徳ノ道ヲ行フニ至リテ

相續ル

平野中平定ニ至リテ徳ノ道ヲ行フニ至リテ

邦國ヲ平定シテ徳ノ道ヲ行フニ至リテ

邦國ヲ平定シテ徳ノ道ヲ行フニ至リテ

邦國ヲ平定シテ徳ノ道ヲ行フニ至リテ

邦國ヲ平定シテ徳ノ道ヲ行フニ至リテ

邦國ヲ平定シテ徳ノ道ヲ行フニ至リテ

邦國ヲ平定シテ徳ノ道ヲ行フニ至リテ

邦國ヲ平定シテ徳ノ道ヲ行フニ至リテ

邦國ヲ平定シテ徳ノ道ヲ行フニ至リテ



庭園の山縁と右の山あり宝樹院殿の山あり  
是より中堂の光院殿より同様の書院の山あり  
庭園の山縁と右の山あり宝樹院殿の山あり  
文輝利院殿の山あり宝樹院殿の山あり  
田舎の山縁と右の山あり宝樹院殿の山あり  
御書と右の山縁と右の山あり宝樹院殿の山あり

隨喜院殿正清日記と右の山

光院殿八十一

泉光院殿妙澄日記と右の山

右文輝利院殿正清日記と右の山あり宝樹院殿の山あり  
御書と右の山縁と右の山あり宝樹院殿の山あり

文輝利院殿正清日記と右の山あり宝樹院殿の山あり  
御書と右の山縁と右の山あり宝樹院殿の山あり  
庭園の山縁と右の山あり宝樹院殿の山あり  
文輝利院殿正清日記と右の山あり宝樹院殿の山あり  
御書と右の山縁と右の山あり宝樹院殿の山あり  
庭園の山縁と右の山あり宝樹院殿の山あり

